

No.14 多発している地山、岩石 - 崩壊・倒壊の死亡災害事例（2021年）

2021 年 生 月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
12	16 ～ 18	被災者は、牧場敷地内にて水道管を新設するために機械掘削（ドラグ・ショベル）で掘削した側溝（幅70cm、深さ1m35cm、長さ32m30cm、土留めなし）内に立ち入って作業を行っていたところ、崩壊した土砂に巻き込まれ、搬送先の病院にて翌日、死亡が確認されたもの。被災者は、当時、一人作業であり、発見された時は、被災者の胸から下が土砂に埋もれて意識がない状態であった。	70101	711	5	30～ 49
12	10 ～ 12	水路補修工事において、地中の管の撤去のために約1.6メートル掘削した底で被災者が作業をしていたところ、側面の土壁が、幅：約5メートル、高さ：約1.6メートル、奥行：約0.2メートルにわたって崩壊し、足の膝付近まで埋まり、土砂で体が押されて胸部が管に激突したもの。	30199	711	5	1～9
11	12 ～ 14	鉄骨造、地上9階建の商業ビル新築現場（請負約6億）で発生。被災者は、車両系建設機械で掘削した深さ2.28メートルの根切り床で、しゃがんだ姿勢で山留めの横矢板壁を寸法測定中、背後の地山が突然崩れ、床面に尻をついた体勢で胸の高さまで土砂に埋もれ、15時頃搬送先病院で死亡を確認した。崩壊箇所は基礎工のため掘り下げ中の掘削面で、当該作業の車両系建設機械が離れた合間に、被災者が掘削面に近づき作業していた。	30201	711	5	10～ 29
10	18 ～	トンネル新設工事の現場において、斜坑（高さ約6.5m、幅約6m）のずい道掘削作業中、斜坑入口から70m地点の発破後、作業員が切羽まで近づき発破に使った爆薬に不発が無かったかの確認を	30102	711	5	50～

	20	行っていたところ、切羽左側上部が肌落ちし、その下敷きとなったもの。				99
10	10 ～ 12	マンホール2か所の間に雨水排水管（塩ビ管）を新設するため、ドラグショベルを用いて表面のアスファルト舗装を剥がし、幅約0.7メートル、奥行約5.1メートルの範囲を深さ約1.95メートルまで掘削勾配90度で溝掘削した後、溝内に入り、雨水排水管をマンホール側面の穴に挿し込み、マンホールと雨水排水管の接続部分を確認していたところ、片側の掘削面が全面的に崩壊し、崩れたアスファルト片等が被災者に激突したもの。	30201	711	5	10～ 29
9	12 ～ 14	太陽光発電設備設置工事において、敷地内の冠水を防ぐための排水管用取り付け作業を行っていたところ、排水管を敷設するために掘削していた溝（掘削深さ3.5m、溝上部の幅、2.5m、計画上の溝底部幅0.8m。）の側面土砂が崩壊し、その時、溝の底部を均す作業を行っていた被災者が生き埋めとなり、その後死亡が確認されたもの。	30301	711	5	1～9
9	8 ～ 10	送水管敷設のため、幅約2.5m、深さ約3.5mに掘削した導水溝にドラグショベルを用いて鋼矢板の建て込み作業を行っていた。被災者が導水溝内に入り鋼矢板を側壁に当てて抑えていたところ反対側の側壁が崩壊し、被災者は腰付近まで土砂に埋まった。被災者は救出され救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	30110	711	5	1～9
8	20 ～ 22	店舗新築工事現場において、敷地内の污水配管の敷設のため、深さ1.695メートルまでドラグ・ショベルにより溝掘削を行っていたところ、溝掘削内の片側の法面が崩壊し、溝掘削内に入っていた被災者が土砂に埋まったもの。	30201	711	5	1～9
6	14 ～ 16	山の斜面において、被災者が樹木の片付け作業を行っていたところ、上方から転がり落ちてきた石に激突されたもの。病院へ搬送されたが、死亡した。	30106	711	5	10～ 29

3	12 ～ 14	下水道管布設工事において、被災者が掘削された深さ約3mの溝内で、土止め支保工の組立て作業（軽量鋼矢板の押さえ、腹おこし材の受け取り）に従事していたところ、側壁が崩壊し生き埋めとなったもの。	30110	711	5	1～9
3	12 ～ 14	土地区画整備工事に伴う上水及び下水管取り出し作業において、被災者は、下水管の埋設位置を確認するため、ドラグ・ショベルで掘削した掘削溝内（深さ4.5m）に立ち入り、スコップで下水管上部の土砂を取り除いた後、地上に上がろうとしたところ、掘削面の土砂が崩落し、生き埋めとなり、救急隊に救助されたものの窒息により死亡したもの。	30110	711	5	1～9
1	10 ～ 12	浄化槽埋設のため地山を掘削し、ドラグ・ショベルでコの字型に3面を土止め用鋼矢板の打設をしたが、1面の鋼矢板が前に傾いてきたので、明り堀坑内で2名で一旦鋼矢板を外し、スコップで地ならしを行っていたところ、鋼矢板を外した地山が崩壊し、1人が膝ま	30199	711	5	10～ 29
1	14 ～ 16	橋の耐震補強工事のため、橋脚の根本から1.5m×5.3m×深さ4.1mほど90度に掘削してから土留め支保工を設置する作業を行っていた。被災者2名が掘削箇所に入り、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）で鋼矢板を吊り順次設置していたが8枚目	30105	711	5	1000 ～ 9999
1	14 ～	を設置しようとした際に、仮設置した7枚の鋼矢板とともに地山が崩れた。被災者2名は鋼矢板が設置されていない場所にいたため土砂に飲み込まれたもの。				
1	14 ～	橋の耐震補強工事のため、橋脚の根本から1.5m×5.3m×深さ4.1mほど90度に掘削してから土留め支保工を設置する作業を行っていた。被災者2名が掘削箇所に入り、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）で鋼矢板を吊り順次設置していたが8枚目	30105	711	5	10～ 29

	16	を設置しようとした際に、仮設置した7枚の鋼矢板とともに地山が崩れた。被災者2名は鋼矢板が設置されていない場所にいたため土砂に飲み込まれたもの。				
--	----	---	--	--	--	--

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210\\_38.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_38.html)